

第5回企画委員会開催概要報告

平成25年8月20日(火)トヨタ自動車㈱東京本社会議室にて、午後3時から午後5時40分まで第5回企画委員会を開催した。議事次第に基づき、報告事項/審議事項を進めたので、以下に概要報告する。

- 【報告】**
1. HPCI 関連：「パコン議連プレゼン実施報告」「文部科学省「今後のHPCIのあり方WG」でのプレゼン実施報告」「HPCIコンソーシアム理事会報告」
 2. RIST との共同事業「国内外のHPC利活用実態調査」の進捗報告
「委員の派遣指名を承認」

- 【審議】**
1. 2013年度事業計画の進捗：「全体進捗確認・承認」「オータムスクールの開催：日程は10/18(金)-19(土)で決定、各社からの積極的な参加要請」「ものづくりワークショップの開催：日程を11/29(金)決定」「9月12日開催：第27回スパコンセミナー：今回「創薬分野」を取り上げて実施。関係分野への周知と参加動員依頼」「シンポジウムの概要、講演テーマ、講師、運営体制、会場：第6回シンポジウム開催を12/18(水)と調整。準備委員会を早急に開催し、企画内容を決定する」「戦略シミュレーションソフトの研究・開発・維持体制の調査検討：早急に活動体制を整え、対応を図る」「産業懇話会開催検討」「9月22日開催の理化学研究所他との共催のシンポジウムについて：内山田運営委員長が講演するため、応用事例に関する資料の提供を各委員に依頼」「COCN活動成果の推進と人材育成施策の検討WGの状況」
 2. 会員へのアンケート調査の実施について：会員の認識状況と現状把握を行うため、8/21にメール配布し、調査協力を依頼。また、企画委員会、実行委員会の各委員は積極的に回答を依頼。登録会員は、165社・機関(正会員も含む)。回答については、本来企業代表であるべきだが、今回は、個人的立場でお願いするほかになく、少しでも回答率が多く、意見が出ることを期待する。
 3. 2014年度新規正会員募集に向けての準備について：来年度の対応として検討を進める。

スーパーコンピュータ「京」を知る集い 特別版の開催

スパコン「京」の今後はどうなるの?をテーマに、理化学研究所計算科学研究機構主催のシンポジウム(産応協協賛)が、平成25年8月24日(土曜日)14:00-17:00、伊藤謝恩ホール(東京都文京区本郷7-3-1 東京大学内)において開催した。参加者370名ほどの参加があり大変盛況であった。

開催に当たり、文部科学省藤木完治審議官から挨拶があり、スーパーコンピュータ「京」による成果について、独立行政法人理化学研究所計算科学研究機構平尾公彦機関長から報告があった。引き続き、株式会社ローソン新波剛史代表取締役CEOから今後のスパコン計画への期待について、多くの課題解決にスピードを重視し、利活用の観点からの講演があり、今回の聴講者の多くが期待する内容であった。次の利活用提案の報告があった。

- ① 気象予測の精度向上
- ② 創薬、医療での活用
- ③ 新物質・エネルギーの創成
- ④ 防災・減災
- ⑤ 顧客ニーズ分析の精度向上

続いて、文部科学省下間康行研究振興局参事官からスパコン開発計画の検討状況について報告があった。

また、正のサイクルを生み出すことが重要であることからパネルディスカッション「スパコン「京」と今後への期待」を行った。

我が国のスパコンプロジェクトを当初からウォッチャしている山根一真さんをモデレータとして、パネルリストを宇川彰（一般社団法人HPCI コンソーシアム 理事長）、瀧澤美奈子（科学ジャーナリスト）、中鉢良治（独立行政法人産業技術総合研究所 理事長）、野口毅（大日本住友製薬株式会社）、米澤明憲（独立行政法人理化学研究所計算科学研究機構 副機関長）を招き、今後ともわくわくする展開が期待される討論が行われた。

HPCI 計画推進委員会「今後の HPCI 計画推進のあり方に関する検討ワーキンググループ産業利用アプリケーション検討サブワーキンググループ」の設置

1. 趣旨

今後とも産業界におけるスーパーコンピュータの活用を促進し、イノベーションの創出につなげていくためには、産業界が利用するアプリケーション・ソフトウェアの在り方を踏まえ、その利用促進方策を調査検討する必要がある。

このため、産業利用アプリケーションの開発・利用の現状及び将来の見通し等について調査検討し、今後のHPCI計画推進のあり方に関する検討ワーキンググループの議論に反映するべく、当該ワーキンググループの下に産業利用アプリケーション検討サブワーキンググループを設置する。

2. 調査検討事項

- ・産業界において利用されているアプリケーションの現状及び見通し
- ・今後の産業利用アプリケーションの開発・利用のあり方
- ・ポスト「京」時代における産業界のスーパーコンピュータ利用

3. 設置期間

平成 25 年 7 月 22 日から調査検討の終了までとする。

4. 産業利用アプリケーション検討サブワーキンググループ

- | | |
|--------|--|
| 秋山 泰 | 東京工業大学大学院情報理工学研究科教授 |
| 天野吉和 | 株式会社富士通システムズ・ウエスト取締役会長 |
| 伊藤 聡 | 理化学研究所計算科学研究機構コーディネーター |
| 奥野恭史 | 京都大学大学院薬学研究科特定教授（寄附講座） |
| 笠 俊司 | 株式会社 IHI 技術開発本部技術企画グループ部長／ スーパーコンピューティング技術産業応用協議会 |
| ○ 加藤千幸 | 東京大学生産技術研究所教授 |
| 塩原紀行 | 高度情報科学技術研究機構神戸センター産業利用推進室長 |
| 善甫康成 | 法政大学情報科学部教授 |
| 常行真司 | 東京大学大学院理学系研究科・物性研究所教授 |
| 吉村 忍 | 東京大学工学系研究科教授 |
| 渡邊國彦 | 独立行政法人海洋研究開発機構地球シミュレータセンター長 |

○主査

5. 第 1 回開催を平成 25 年 8 月 21 日（水）午後 5 時～7 時まで

【場所】文部科学省 15 階 15 F 1 会議室

【議題】

- (1) 産業界におけるアプリケーションの利用の現状についてのヒアリング
(FOCUS、RIST、バイオグリッドセンター関西)

次回開催予定：平成 25 年 9 月 3 日（水）

日本における戦略的なシミュレーションソフトの研究・開発・維持体制に関する検討の重要性について

【本活動の問題意識】

日本におけるシミュレーションソフトの開発・利用技術、産業界での利用、産学官連携については、次のようないくつかの課題があると考えられる。①その開発・利用技術が、基盤技術として、利用分野・業種横断的にこれを維持・強化する体制になっていない。②産業界ではシミュレーションの重要性が増しているにも関わらず、商用ソフト依存になっ

ており、ソフト開発・利用技術の空洞化が起きている。③アカデミア側で開発されたソフトの産業界での活用がうまく行われていない。

これらの原因としては、①コンピュータシミュレーションが重要な基盤技術であることへの認識不足、②国の制度の限界(期限付きプロジェクト制度、要員育成・維持制度等)、③産業界側のニーズやサポート要求とのミスマッチ(アカデミアへの過大期待)とアカデミア・産業界両者の覚悟不足、④ソフト開発の特性への理解不足(長期継続の重要性、コストの大半は初期開発後の改良・維持)など考えられるが、まだ有効な対策がとられているわけではない。

[対応案]

産業競争力にとって重要な、シミュレーションソフトの開発・利用技術を、産業界が中心となって基盤技術として利用分野/業種横断的に開発・改良・維持していく仕組みの設立が一つの解決策と考えられる。(仮称 CSEAC : Computational Science and Engineering Applications Center)

- ・各参加機関・企業が出資と継続的な運営費負担を行い、各参加機関・企業が責任をもって、設立・運営にあたる。(国プロへの一時的出資ではなく、継続的なコミットメントをする。)
- ・既存の商用ソフトとの棲み分けを考慮し(長期的かつ戦略的分野、商用ソフトでカバーされていない分野等)、①各参加機関・企業が共通に関心を持つ、分野・業種横断的、長期的かつ戦略的なソフトの研究・開発・維持、②各参加機関・企業またはグループが個別に費用負担する個別プロジェクトの実施、③国予算による国家プロジェクトの実施、を主な業務とする。
- ・専任者と企業・アカデミアからの出向者からなる、計算機科学/計算科学のサイエンティスト/エンジニア/これを支援する要員で構成する。
- ・各参加機関・企業側で受け皿となるソフトの開発・運用を行う体制を確立・維持することが重要になる。
- ・実現のモデル：仏 CERFACS

産協協利活用実態アンケート調査の実施

当協議会は、8年目の活動に入っており、平成25年度事業活動は新生産協として、新しい運営体制のもとで組織強化を図り、産業競争力強化をめざした展開を図ることとなった。

今回会員相互の情報共有強化を推進するため、会員の実態把握と活動ニーズをより明確化することとし、アンケート調査を別添調査票により実施することとした。

この機会に各位の忌憚のない、ご意見、ご要望、自社内普及のための課題等を聞くこととなった。当協議会は、設立当初からコンピュータシミュレーション技術の普及啓発を進め、特に産業界におけるものづくり等に大きな影響力を与えてきたが、反面、本分野に携わる方々にとっては、何故自社内に普及しないかという大きな課題と問題を抱えていることを聞かされている例が多くあり、産協としては、是非ともこれらの対応と支援が出来ることを推進したいと考えており、調査協力をお願いすることとした。

個別回答については、事務局が管理し、全体の回答結果は、後日郵送させていただくとともに登録会員の確認を行うこととした。

なお、回答は、早急にとりまとめを行い、現在の活動に即反映するため、9月4日(水)までに事務局へ回示することとした。

関係機関共催による「京」共用1周年シンポジウムの開催

独立行政法人理化学研究所(野依良治理事長)、一般財団法人高度情報科学技術研究機構(関昌弘理事長)、公益財団法人計算科学振興財団(秋山喜久理事長)、神戸大学(福田秀樹学長)、スーパーコンピューティング技術産業応用協議会(内山田竹志委員長)、次世代スーパーコンピュータ利用推進協議会(大橋忠晴会長)、NPO 法人バイオグリッドセンター関西(下條真司理事長)は、スーパーコンピュータ「京」の共用開始1周年を記念してシンポジウム「スパコンが拓く未来の産業と生活—ポートアイランドからの発信—」を、9月22日に神戸大学総合研究拠点コンベンションホールで開催する。

プログラム案

開会挨拶:神戸大学長 福田秀樹/来賓挨拶:兵庫県知事井戸敬三、文部科学省

講演 1:神戸市長 矢田立郎

講演 2:理化学研究所計算科学研究機構長 平尾公彦

講演 3:スーパーコンピューティング技術産業応用協議会 委員長 内山田竹志

講演 4:次世代スーパーコンピュータ利用推進協議会 大橋忠晴

講演 5:神戸大学大学院システム情報学研究科特命教授 小柳義夫

講演 6:京都大学大学院薬学研究科教授 奥野泰史

閉会挨拶:高度情報科学技術研究機構理事長 関 昌弘

文部科学省「革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ (HPCI) の構築」HPC I 戦略分野 2「新物質・エネルギー創成」計算物質科学イニシアティブ (CMSI) 計算分子科学研究拠点第 4 回研究会のお知らせ

主催:分子科学研究所 計算分子科学研究拠点

日時:2013年9月10日(火) 13:00-18:45及び懇親会

2013年9月11日(水) 9:00-17:00

場 所:自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター 大会議室

参加費:無料(但し、懇親会は5,000円)

懇親会:自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター 中会議室

参加登録:以下のWEB ページより参加登録をお願いします。

http://tcci.ims.ac.jp/tcci/event/conference_20130910.html

お問い合わせ先:〒444-8585 岡崎市明大寺町西郷中 38

分子科学研究所 計算分子科学研究拠点事務局

HPC 産業利用オータムスクールの開講企画概要

開講の趣旨は、新体制となった産協の正会員企業における若手から課長クラスの交流を活発化させることによって、企業における HPC 技術普及活動の底上げを図る。また、本受講生をコアとして、各自社内での HPC 技術利活用によるイノベーション戦略企画や、HPC 利用成果事例の発信など情報の共有、更には HPC 政策に対する産業界からの提言や産業界自身の取り組み検討などを自律的に行えるコミュニティ構築の起点とする。そのため今回の参加者は、今後の産協行事への参加、更には新たな企画立案者(実行委員、企画委員)の第一候補ととらえ、事務局、企画/実行委員会でもその認識を持ってフォローする。

・日時候補:平成 23 年 10 月 18 日(金) 午後 1 時~10 月 19 日(土) 午後 13 時 30 分

-1泊2日-

・場所候補:多摩永山情報教育センター 〒206-0024 東京都多摩市諏訪 2-5-1

・主催:スーパーコンピューティング技術産業応用協議会協議会

・共催:東京大学生産技術研究所革新的シミュレーション研究センター-分野 4-

計算物質科学イニシアティブ (CMSI)-分野 2-

・対象者:計算の実務者というより、社内計算環境の企画、マネジメントを行う立場の方々

・定員:20名程度(6~8名のGrが2~3Gr程度)

・参加費:産協正会員は、¥5,000円(参加企業が多い場合は調整させていただきます)

正会員以外は、¥30,000円(参加者1名当たり、宿泊費・食費・テキスト 税込)

プログラム(案)概要は、HPC 技術の将来に深くかかわる産学官の有識者を講師、チューターに迎え、現在から将来にわたる HPC 技術の企業利活用に関し重要となる視点を提示願う。さらに企業でシミュレーション技術により社内イノベーションを推進する実務を担っている方の経験談も加え、多様な業種からなる受講者による車座議論を行い、自社における HPC 利活用とイノベーションをより深く考えるヒントを得られるようにする。更に、受講生/講師/チューターからなる顔の見えるネットワーク構築のきっかけとする。

平成 26 年度「京」および HPCI 計算資源利用研究課題募集のお知らせ

https://www.hpci-office.jp/pages/h26_boshu

登録施設利用促進機関 一般財団法人 高度情報科学技術研究機構では平成 26 年度の「京」および「京」を除く HPCI 計算資源を利用する研究課題の募集を以下のとおり予定している。

【募集開始】平成 25 年 9 月初旬予定

【利用開始】平成 26 年 4 月 1 日予定

【募集対象】

- ・「京」一般利用（一般課題、産業利用課題、若手人材育成課題）
- ・「京」を除く HPCI 計算資源一般利用（一般課題、産業利用課題）
- ・HPCI 共用ストレージ
- ・HPCI システム構成機関の独自ルールで共通運用される計算機詳細は決まり次第、HPCI ポータルにて順次ご案内いたします。また、課題募集説明会を以下の日程で開催いたします。

【日時】平成 26 年 9 月 6 日(金)、9 月 13 日(金)、9 月 20 日(金)、9 月 26 日(金)
14:00～16:00

【会場】9 月 6 日(金) 神戸(第 1 回) 理化学研究所 計算科学研究機構

<http://www.aics.riken.jp/jp/access/>

9 月 13 日(金) 東京(第 2 回) フクラシア浜松町

<http://fukuracia-hamamatsucho.jp/access/>

9 月 20 日(金) 東京(第 3 回) 国立情報学研究所学術総合センター(一ツ橋)

<http://www.nii.ac.jp/about/access/>

※上記 3 回に関しては以下の各 HPCI 連携拠点との TV 会議接続を予定している。
(北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)

9 月 26 日(木) 神戸(第 4 回) 理化学研究所 計算科学研究機構

<http://www.aics.riken.jp/jp/access/>

【参加費】無料但し、事前申込みが必要です。

【申込み】説明会への参加申込みは、HPCI ポータルサイトにて受け付けます。

受付開始は 8 月 20 日を予定しております。

HPCI ポータルサイト：<https://www.hpci-office.jp/>

【問合せ】登録施設利用促進機関 / HPCI 運用事務局

一般財団法人 高度情報科学技術研究機構 神戸センター

共用促進部 募集担当 E-mail: boshu@hpci-office.jp

第 1 回 HPC ものづくりワークショップの開催決定

本年度第 1 回 HPC ものづくりワークショップを平成 25 年 11 月 29 日(金)午後 2 時～午後 6 時 東京大学生産技術研究所会議室において開催する。参加者は、事前に参加登録した産応協会員及び旧イノベーションプロジェクト関係者 30 名程度とする。

ワークショップで取り上げるソフトウェアは、(1)FrontFlow/Blue(2) FrontFlow/ Red(3) FrontFlow/ Violet(4)UPACA(5)FrontISTR(6)FrontComp(7)Revocap(8)OpenFOAM

今後の予定

9/12 第 27 回スパコンセミナー開催 —テーマ:創薬分野—

9/13 第 4 回実行委員会開催

9/22 「京スパコン」一周年を迎えて記念シンポジウム(仮称)

10/18-19 HPC 産業利用サマースクール開催(一泊二日)

10/22 第 6 回企画委員会開催

11/29 第 1 回 HPC ものづくりワークショップの開催

12/18 第 6 回シンポジウムの開催

[産応協事務局]

事務局は「虎ノ門」に設けておりますので、お問い合わせをお待ちしております。

スーパーコンピューティング技術産業応用協議会

事務局 滝口、清

電話 03-6435-5425 Email:icscp@nifty.com